

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990300147		
法人名	社会福祉法人 星風会		
事業所名	グループホーム こすもす2号館(2-1)		
所在地	栃木県栃木市惣社町123-3		
自己評価作成日	平成28年10月17日	評価結果市町村受理日	平成29年1月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6
訪問調査日	平成28年11月16日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・個別ケアに力を入れています。一日の大まかなスケジュールはありますが、その人らしい暮らし方を尊重し生活リズムを確保しています。また、排泄に関しては特にデータ収集・分析を行い 気持ちよく生活できるように努めています。  
 ・委員会活動に力を入れています。身体拘束・虐待に関しては特に力を入れていて、日中は玄関を解放しているため徘徊のある入居者様に関しては危険のない限り抑止せずに一緒に外へ出かけるようにしています。  
 ・生活の継続という点では趣味活動等の支援のひとつとして移動図書館の利用の支援・訪問販売の利用支援等行っています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所では、画一的な支援ではなく、その人らしい生活を大切にしている。大まかな集団生活の流れはあるが、起床時間や生活リズムなど入居前の生活歴も考慮している。テレビ視聴やボードゲーム、計算ドリルや塗り絵、体操や散歩など、各々の興味のある活動を個別支援し、思い思いの生活ができるよう配慮している。月二度、「こすもす食堂」と称し、お盆には地域の風習のうどん、冬はおでん、しもつかれ、正月にはおせち料理や雑煮など、季節や利用者の好みを取り入れた献立を作り、外食が困難な方も皆で普段とはひと味違った食事を楽しむ機会を設けている。地域行事のほか、移動図書館や移動販売などを利用し、日頃から地域社会との繋がりを大切にしている。職員は、利用者と一緒に向き合い、気持ちに寄り添い、笑顔のある毎日を送れるよう心掛けている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	品質方針に基づいた理念を作成し事務所内に掲示しています。また、常に意識しながら実践できるように努めています。	個別ケアを重要視し、一人一人の思いの尊重、自分らしい暮らし、家族との絆、地域との繋がり、尊敬と感謝の心を大切にしたい理念を作成している。職員は、理念を基に、個々に適した生活ができるよう日々心掛け支援にあたり、実践に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の神社へ初詣に出かけたり、地域の祭りや小学校の運動会への招待、近所の商店での日用品の購入を通して地域とのつながり、交流をしています。	小学校の運動会や地区の公民館祭への作品展など地域行事に参加している。移動販売や近所の商店へ日常的に買い物にでかけている。近隣の住民との交流の機会は多く、日頃から顔見知りの関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度開催される運営推進会議の場を通して地域の方々に向けて活かしています。また、法人で行われる地域交流事業を通して発信できるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、報告・話し合いを持っています。利用者様も同席したり、一緒に体操を行うなど利用者様ともふれあっています。会議では、多方面からのご意見を頂き参考にしています。	近隣の商店主や住民、民生委員、地域包括センター職員、派出所、家族、利用者などが参加し2か月毎に開催している。各種報告の他、防災訓練やAED講習、市の出張講座などを企画している。積極的に情報交換をし、外部の声から得た様々な気づきをサービス向上に活かしている。	様々な取り組みをしているが、より一層の地域の理解と協力を得られるよう、自治会や消防団といった新たな参加者についても検討するなど、今後の更なる取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に管理者が市町村管理者と連絡を取っています。少しでも疑問が生じた時点で相談報告を行っていることで協力関係が築かれています。また包括支援センターの職員に地域運営推進会議に参加していただいています。	市担当者とは必要に応じて電話や役所訪問により相談し指導や助言を受けている。運営推進会議での出張講座の依頼や、市主催の各種研修への参加など、様々な機会を通して情報共有し、協力・連携関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会が中心となり、内部研修・勉強会などを通して身体拘束についての知識を持ち、理解する機会を設け、身体拘束ゼロに向け取り組んでいる。言葉の拘束についても同様に理解を深め職員同士が注意しあえる環境作りに努めています。	定期的な内部研修の他、職員トイレに言葉の拘束についての張り紙をするなど、日頃から振り返り、意識付けをして職員の共通認識を図っている。玄関は日中の施錠はせず出入りは自由で、職員が付き添い見守ることで、拘束のない暮らしの支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会が中心となり、内部研修などを通して高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を設けると共にアンケート、予防処置等で情報を収集、職員一人一人の意識を高め、取り組んでいます。		

星風会グループホームこすもす2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部・外部での研修を通して勉強する機会を設け、必要としている方がいる場合は、活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結については入居契約時に、改定があったときには内容についての文書を作成しご家族にお渡しするとともに口頭での説明も行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の意見・要望は面会時や訪問時等随時お伺いするようにしています。また、アンケートを実施し、その結果を運営推進会議などを通して発信し運営に反映させています。	行事や面会時の他、毎月の支払いは事前に電話連絡を入れ、振り込みではなく来訪してもらい、家族と顔を合わせ話す機会を設けている。家族の要望と本人の希望が異なる場合も、双方の思いを大切に、出された意見は真摯に受け止め、運営に反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見・提案は随時受けていますが、月1回、全体会議やユニット会議を開催し、職員同士の意見交換や情報共有をしています。	管理者と職員とは日頃から話しやすい関係ができています。身体拘束・感染・内部研修など各種委員会があり、新たな取組みも積極的に提案・検討している。改善の必要があればすぐに対応し、日々の支援に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人がやりがいを持てるよう委員会等の役割を持たせています。また資格取得に対しては資格手当の制度も定められており、契約社員においては社員への登用制度も確立されています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加は増えてきており、研修で得たものを現場へフィードバックするよう指導しています。また内部研修を充実させることで働きながらトレーニングしていけるような環境を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・計画作成担当においては、法人内外の他施設と交流があるが、現場スタッフにおいては交流が難しいのが現状であり、外部研修に参加する機会を増やすなどしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前にその方の基本情報を職員間で共有しています。そのうえで、ケア内容を職員間で話し合い、本人の安心を確保するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の相談から入居に至るまで連絡を密にとり話し合いを行っています。入居後も必要に応じて話を聞く機会や話し合いの場を設け、信頼関係を築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を確認しながら必要としているサービスを見極め、対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活歴の把握に努め、本人が出来ることは一緒に行い、同じ時間を共有することで共に生活しているという気持ちを持っていただけるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調の変化や日々の様子を電話やこすもす通信を通して家族に報告、発信している。また、合同行事を行う際は、案内状を送り参加を呼び掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院や理美容室など、これまでの関係が継続できるよう家族に協力をしていただきながら、支援に努めています。	家族の協力を得て、理美容室の利用、食事やショッピングモールへの買い物、大平山など馴染みの場所へでかけている。自宅へ外泊する方もいる。友人の多い方は来訪者もあり、居室でくつろいでもらっている。昔馴染みの店への買い物などは、対応可能な範囲で支援し関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格、他の利用者との相性など、利用者同士の関係を把握し、楽しく生活が送れるよう必要時には職員が間に入る等の支援を行っています。		

星風会グループホームこすもす2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用後においても、必要に応じて本人・家族と連絡を取り経過のフォローを行っています。また、他施設へ移った場合には、他施設の担当者への引き継ぎもしっかり行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中から意見や要望を確認し、本人の望む生活に少しでも近づけるよう個別サービスの提供に努め、困難な場合はできる限り本人本位の支援が出来るよう努めています。	改めて尋ねると遠慮してしまう場合もあるので、日常の何気ない会話やテレビの話題、入浴時や食事中など個々にあったタイミングや声かけにより、日々の生活の中で出た本音をくみ取るよう努めている。困難な場合も表情や仕草から意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、本人の言葉や言動、家族様への確認をすることで、生活歴や生活環境の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日どのように過ごしたかを生活支援記録等に記入し、全職員が情報を共有し現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に本人、家族、訪問看護などに意見を確認、情報を収集しサービス担当者会議を開催、職員の意見も反映したうえで施設サービス計画書を作成しています。	半年に一度のモニタリングに基づきアセスメントし、担当者が原案を作成後、職員、医師、訪問看護師、家族等の意見を取り入れ、本計画書を作成している。状態に変化があればその都度話し合い、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活支援記録に日々の生活の様子を記録し、情報共有に努めている。課題があった場合は、その都度話し合いの場を設けています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意見を尊重し、可能な限り柔軟な支援に取り組み、職員の状況により対応が出来ない場合は家族に協力していただけるよう信頼関係の構築にも力をいれています。		

星風会グループホームこすもす2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の商店へ買い物に出かけたり、地域の行事に参加をして楽しむことができるよう支援に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人・家族の希望を第一としています。受診の際は、日頃の状態を記載した「情報提供書」を作成し担当医師に提出しています。必要時には職員が同行しています。	希望に添い、かかりつけ病院の継続受診を支援している。家族の通院介助を基本とするが、急な体調変化や経過説明が困難な場合など、必要に応じ職員が同行している。家族が遠方や高齢で通院介助が困難な場合には、訪問診療に対応している協力医を希望する方が多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護に随時状態報告、相談しています。また、緊急時には看護師と連絡をとり、医師の適切な診療を受けることができるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先には定期的に面会に行き、状態の把握に努めています。また、病院関係者との情報交換に努め 退院時には速やかな対応ができるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で家族との話し合いを行うことで落ち着いて方針が決められるように対応しています。また、職員においては内部研修を通して職員の知識向上に努めています。家族・訪問看護・職員などの関係者で方針を共有して支援しています。	入居時及び体調変化時にはこまめに家族と連絡を取り、今後の方針を確認している。病院への緊急搬送時に考え得る処置や、経管栄養には対応できないなど、事業所で対応可能な範囲を具体的に伝えた上で、本人家族の思いを大切に、看取りも含め希望に添うよう努めている。看取りについての内部研修を行い、職員の意識向上にも努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルに従い、こすもす全体での内部研修や、ユニットの勉強会を通して急変時や事故発生時の対応について知識を高め実践につなげられるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合避難訓練や月1回の避難訓練を行い、災害に対する意識を高めています。年1回は夜間招集訓練を実施していますが、夜間の対応について詳細なマニュアルがないため作成中です。	災害ホットラインに近隣の方にも登録してもらい、緊急時の対応を依頼している。日中夜間火災想定避難訓練を実施している。より安全な避難ができるよう、状況に合わせた誘導方法の変更など、その都度見直し改善に努めている。今後の対策として、大雨時の行動予測訓練も予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重とプライバシーの確保については、内部研修・ユニット勉強会などを通じて理解を深めています。常に入居者様の思いを大切にしながら言葉かけ・口調に注意しています。	入浴や着替え、排泄介助時の声かけなど、プライバシーに配慮した支援に努めている。利用者同士の関係にも気配りしている。個人書類の取扱いには十分気をつけ、個人情報以外の利用者の前で話さないなど、職員間の会話にも留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通じて意思表示ができる環境づくりに努めています。本人の持っている力を見極め アドバイスをするもありますが、決定するのは入居者様にお任せしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れは決まっていますが、個々のペースで過ごしていただいています。本人の意思を尊重し希望に添えるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類をご自分で選べる方は、選んでいただいています。また散髪は、家族様と馴染みの美容室へ行かれる方、訪問美容を利用される方がいらっしゃいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は職員が調理を行っていますが、たまに調理に参加される方もいます。テーブル拭きやおしぼりの準備など個々の能力に応じて参加が出来るようにしています。	食材宅配を利用し職員が調理するが、利用者も個々の能力に応じ野菜の皮むきや食器洗い、おやつ作りなどに参加している。月に二度の「こすもす食堂」では、利用者と相談して献立を決め、一緒に買い出しや調理を行っている。季節や地域行事に合わせた献立を取り入れ、食事を楽しめる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養に関しては食材業者から栄養が計算された食材を使用しています。食事量は体の状態に合わせて摂取していただき記録しています。水分量については入浴前後や外出時に水分補給をしていただくなどこまめな補給を心がけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声掛けを行い個人個人に応じた必要な援助をしています。洗浄剤での義歯洗浄もおこなっています。		

星風会グループホームこすもす2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握やプライバシーの配慮をしながら、トイレ誘導を行っています。また、排泄ケアを統一することで失敗を減らすことができています。	24時間の排泄パターンを記録して把握し、個々に応じた声かけや誘導により、トイレでの排泄を支援している。身体機能や状況に応じた工夫や配慮をすることで、オムツを使用せずトイレでの排泄の自立に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認を毎日行い、パターンの把握に努めています。毎日のラジオ体操や散歩への参加を促し体を動かしていただいたり、水分補給にも努めています。必要に応じて訪問看護師や医師へ相談をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を尊重しながら1日おきを目安に入浴援助を行っています。拒否が続くこともあります。そのようなときには毎日お声かけしています。入浴時は個々に合わせた入浴方法で入浴していただきリラックスしていただけるように心がけています。	一日おきに1対1の支援を基本としている。自立の方も見守るが、見られたくない方には戸を閉め、気配などで様子を伺うなど配慮している。季節湯など入浴を楽しめる工夫をしている。拒否のある方も声かけの工夫や、時には清拭で対応するなど、個々に沿った支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調、希望に応じて休息を促しています。気持ちよく眠っていただくために週1回はリネン類の洗濯をしています。また、就寝時刻は個人個人で違いますので消灯時間は決めていません。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の内服薬の説明書はいつでも見られるようにチェック表にファイリングしています。変更があった場合は申し送りノートなどを活用し周知し、症状の変化の記録もしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味のある方は継続できるように支援しています。個人にあわせた楽しみ事をご提供できるように努めています。また、レクリエーションや外出支援・手作りおやつなどを企画し気分転換ができるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援や日用品購入を実施。その時々で1対1での外出もしています。家族にも協力していただき外泊、外出できるよう働きかけています。	近隣商店への買い物や散歩、車椅子での散歩など、毎日声かけをして希望者を支援している。春には昼食やおやつを持参し敷地内の桜の下で花見を楽しんだり、小山の菊祭りや壬生の紫陽花、大平山の紅葉見物、正月は初詣に出かけたりと、日頃から外出の機会を設けている。家族と年に数回の温泉旅行をする方もいる。	



星風会グループホームこすもす2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかいは事務所内で管理させていただいています。必要時にはおこづかいの中から希望される商品を購入できるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所内の電話から職員が家族に状況を伝えた後、希望に応じて本人と話せるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間での湿温調整をこまめにおこなっています。また、入居者様と一緒に季節感の感じられる作品作りをしています。	午前午後の温度湿度を確認し快適な空調管理に努めている。中庭から自然光が差し込む食堂や廊下は明るく、壁には利用者の作品や季節の飾り付けをしている。小上がりスペースがあり、腰掛けて談笑したり、昼寝をしたりと思いいにくつろげる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間内で一人になれるような空間はありませんが、ソファや畳コーナーなどお話をしたりくつろげる空間作りをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具や寝具を持参していただいています。状態に応じて本人、家族と相談しながら居心地の良い空間になるよう工夫しています。	各部屋三畳程の板の間と四畳半の畳スペースからなり、洗面台、冷暖房、照明、カーテン、押入は備え付けである。ベッドや布団など好みの寝具、筆筒などの使い慣れた家具や家族写真など装飾品の持ち込みは自由で、各々その人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	プライバシーに配慮しつつ本人の部屋がすぐ分かるよう花や絵を飾ったり、廊下やトイレに手すりを設置し安全に考慮しています。		